



農地に関する情報や
農業委員会だよりの
バックナンバーを掲載
しています。

農業委員会だより



柏崎市で米づくりをしている 望月鉄心さん に話を聞きました！



横浜市で育った望月さん（40）は、中学生のときに進路を考える中で体力を活かす仕事に興味をもち、農業高校に進学しました。その後、衣料品販売の仕事に就きますが、2011年の東日本大震災をきっかけに食の大切さを改めて感じ、農業の道へ進んだといいます。全国から農業者が集まるイベントで柏崎市の農家と出会い、何度か体験に訪れるようになったそうです。その年の7月には移住を決意し、市内の農家のもとで就農しました。現在は、中田、上輪、比角などの地区で「ゆきん子舞」「コシヒカリ」「にじのきらめき」「新之助」といった収穫時期や味の異なる多様な品種の米を生産しています。「清らかで澄み切った水が豊富なところが魅力です。お客様に召し上がってもらい、率直な感想をいただけると嬉しいです。お酒が好きなので、将来は酒造りにも挑戦できたらと考えています」と現在の米づくりと今後の目標について語ってくれました。

▶農業委員会には、農業委員と農地利用最適化推進委員がいます。委員が果たす役割、地域にとっての必要性とはどのようなところにあると思いますか？

会長

農業委員会では、相対の利用権設定の手続きを行っていましたが、近年更新しない耕作者が増えています。中山間地域では受け手がいないのが現状です。こういった地域が抱える課題に、農業委員、推進委員がしっかりと役割分担しながら対応していく必要があります。

職務代理者

推進委員は平成29年7月に就任し、活動を開始しました。離農者が増加する中で推進委員はその調整役を担っており、今後はますます重要な立場になると思います。ただ、どの農家も農地を受けきれない規模になってきており、調整が難しくなっています。続けていく農業者が更に規模を拡大していけるように、どういう政策や支援が必要かを行政に伝えていくことも、農業委員会の役割です。

▶委員会として今後どのようなことに取り組んでいきたいですか。

会長

委員会の活動を皆様に知っていただくような広報の在り方や情報提供の方法を考えていきたいです。地域ごとに農業委員、推進委員の地区割がありますが、皆様に農業委員会の諸活動を更に理解してもらう必要があります。

職務代理者

柏崎には農業を取り巻く様々な組織がありますが、それらの組織が集まって話をしたり、連携して何かを企画したりすることがあまりないのは残念です。もっと地域で交流しながら一緒に取り組んでいきたいです。

▶課題がいろいろと出ましたが、柏崎で農業をする良さとはどこにあると思いますか。

会長

私の住んでいる地域では、地域外から草刈や電気柵の撤去などの作業を手伝ってくれる方が頻繁に来てくださっています。若くて作業をどんどん進め

てくれるので、ずいぶんと助かっています。地元の住民だけでは難しいことも、そういった力を借りて維持することができています。

職務代理者

中山間地から、平場、海沿いまで、それぞれの環境に応じた農業をしている見本となる経営体があるところだと思います。水稻に特化して大規模に経営している組織もあれば、条件に合う土地を使って多様な作物を作っている組織もあります。いろいろな経営体を見られるのは柏崎の良さだと思います。

▶最後に、市内の農業者の皆様メッセージをお願いします。

会長

「儲かる農業」は難しいですが、私は「楽しい農業」という感覚でやっています。勉強しながら経験を積みながら、地域における貴重な資源である農地を守り、楽しい農業を満喫しています。

職務代理者

農業を継続する方には、きちっと数字で判断できる経営をすることが大事だと伝えたいです。また、農業を辞めようかと考えている方には、健康に配慮され一日でも長く農業に関わってもらいたいです。

会長

地域で水路や農道の維持管理を行うときに、市内に祖父母がいるという若い方が市外から何人も来てくれます。大切な祖父母がいるから手伝いに来るといった感覚かもしれませんが、それが農地だけでなく地域を守ることにつながっているんです。

職務代理者

フェイスブックを使って地区の関係人口をいかに増やすかという取り組みを行っている委員もいます。地区に縁もゆかりもなかった人に地区の魅力を伝えて実際に足を運んでもらい、一緒に電柵張りの作業を行うなど、関係づくりをしているのはとても良いモデルです。

会長

いかに情報を発信しながら進めていくかが重要です。地域の良いところだけでなく課題も発信していくことで、人とのつながりが長く続いていくと思います。



職務代理者 佐藤 敏

会長 石塚 道宏

市長への意見書提出

10月4日に、農業者の意見・要望を取りまとめた「柏崎市農業施策等に関する意見書」を櫻井市長へ提出しました。意見書では、農業資材の高騰や毎年のような自然環境の変化によって農業所得への影響が懸念される中での諸課題の解決に向け、主に次のような要望をしました。

1 食料安全保障と地域計画の作成に向けた支援

- ・地域の現状や特性を踏まえた地域計画の策定
- ・経営規模の大小や作付け品種に関わらない補助金の交付や機械の導入・技術の習得への支援

2 後継者の育成と就農希望者が参入しやすい仕組み作り

- ・Iターン、Uターン、親元就農など幅広い就農者に向けた資金援助策の強化・充実

3 出口戦略の推進と意見交換の場の設定

- ・市内農産物の販路確保
- ・異業種（商工観学）での意見交換の場の設定

4 データインフラの整備

- ・各経営体の成功例、失敗例のデータの蓄積と公開



5 有害鳥獣対策の強化と里山整備への取り組み

- ・有害鳥獣の捕獲体制の強化と被害防止に向けた補助事業の展開
- ・野生動物との緩衝地帯^{かんしようち}を守るための里山整備事業

意見書の内容について、例えばこういったデータを蓄積することが想定されるか、鳥獣被害に有効な対策は何かなど、具体的な方策について市長と意見交換を行いました。市長は、「食料とエネルギーをどうやって確保していくかが重要だと感じている」と述べていました。

市議会との意見交換会

10月18日に、農業委員会の役員、農政会議委員と市議会産業建設常任委員会委員との意見交換会を開催しました。

地域計画、ほ場の環境整備、後継者・新規就農者雇用への補助金、スマート農業への支援、災害対応、農業の出口戦略、市農業部署への専門職配置などをキーワードに「柏崎市の農業を持続させていくために必要な支援や施策」について意見交換を行いました。

農業委員会からは、以下のような意見・要望を伝えました。



農業委員会（奥）と市議会産業建設常任委員会（手前）

後継者を雇用するときに国や県、市の補助があれば、後継者の育成及び耕作放棄地の発生防止に効果があります。ぜひ検討ください。

地域のニーズに対応できるように、農業担当部署における専門的な知識や技術をもつ人材の確保及び育成をお願いしたいです。

国の政策である「地域計画」は、地域農業の将来の在り方を明確化したものとされていますが、市として農地の集約や園芸振興などをどう進めていくのか、柏崎の農業のありたい姿とは何なのか、市の総合計画の中でしっかりと明記していただきたいです。

新潟県農林水産部農業総合研究所 園芸研究センター（聖籠町）

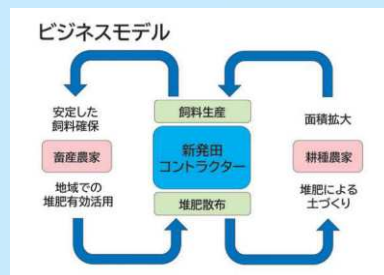


園芸研究センターでは、数えきれないほど多くの種類の野菜を栽培していました。「土づくりで一番大切なことは^{どじょう}土壌と水はけ」と教えていただきました。私達の質問にも時間が許す限り答えてくださいました。農業技術や農業研究に興味がある方は、ぜひ視察見学に行ってみてはいかがでしょうか。（※）

（農業委員 月橋 明日香） ※視察を希望される方は、園芸研究センターのホームページをご確認ください。

新発田コントラクター（新発田市）

新発田市で耕畜連携の取り組みを行う新発田コントラクターを視察しました。耕種農家（※）3戸と畜産農家2戸からなり、耕種農家では肥料などの高騰、繁忙期の重なりや^{もみ}籾殻の処理、畜産農家では飼料高騰や堆肥の利用減少といった大きな問題点を抱えていました。新発田コントラクターでは、この問題を解決するため、耕種農家は飼料作りを取り入れ、畜産農家は堆肥をそれに活用してもらうという、素晴らしい取り組みを行っていました。私達も地域に合った農業を考えていきたいと思いました。（農地利用最適化推進委員 渡辺 秀和）



※耕種農家とは、土地を耕して米や野菜などの作物を育てる農家のこと。

耕種農家 有限会社 アシスト二十一

稲WCS（※）とライ麦の二毛作に挑戦中。使用している機械について教えていただきました。

※稲WCSとは、稲の出穂後、実と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料。



飼料生産の取り組みを説明するアシスト二十一代表取締役で新発田コントラクター監事を務める木村清隆さん

畜産農家 尾田牧場



約60頭の牛の数と^{たいく}体躯と糞尿の威力は壮観で、生後間もないかわい仔牛達には癒やされました。お昼の餌を食べて満ち足りた時間帯だったせいか、鳴き声を聞くことができず少し残念でした。

畜産と耕種の農家が連携しながら資源を循環させるシステムを構築し、未来に向けた力強い取り組みをされている姿に感銘いたしました。尾田代表の「多くの方に酪農に興味をもってほしい」という言葉が印象的でした。（農業委員 高橋 啓子）

10月28日
北信越ブロック女性の農業委員会研修会
 (富山市)



富山県で開催された研修会に参加しました。
 午前は、講演で「農業委員会組織を巡る情勢について」、午後は、ワークショップで「思いをカタチにできる座談会の開き方」でした。ワークショップの進行と実際の座談会の進め方を同時に体感でき、とても分かりやすい内容でした。よくある付箋形式のやり方とその先につながる会の進め方を勉強でき、とても有意義な時間でした。(農業委員 水野 美保)

11月12日
上・中越協議会合同研修会
 (上越市)



ユートピアくびき希望館で開催された研修会に、当委員会から26名の委員が参加しました。
 研修会では、「農地利用の最適化活動の推進等」に関して、①なぜ今、農地利用の最適化なのか ②最適化が必須業務に至るまでの経過 ③地域計画作成以降の取り組み といった観点での説明がありました。また、明治大学助教の古田恒平氏による「企業の農業参入の実態と地域における課題」についての講演を聞きました。

11月21日
新潟県農業会議創立 70 周年記念
新潟県農業委員会大会
 (新潟市)



県内の農業委員・推進委員が一堂に会する本大会に、当委員会から25名が参加しました。
 「農地利用の最適化に向けた施策推進に関する要請決議」などの3議案が可決された後、全国農業会議所の稲垣照哉専務理事による「改正基本法のもとでの地域農業再構築と農業委員会組織の役割」と題した講話がありました。さらに、フリーアナウンサーの伊勢みずほ氏による70周年記念特別講演「新潟の食と農に感謝！時代の変化への挑戦！」が行われました。

永年勤続農業委員等に表彰状

【農業委員勤務 20 年以上】
安野 検一 委員

左記の農業委員会大会において、新潟県農業会議による永年勤続委員などに対する表彰がありました。当委員会からは、安野検一委員が表彰を受けました。これは、長年にわたり地域農業の発展に尽力され、農業者の地位向上に努力された功績が認められたものです。





農地利用最適化
推進委員

上杉 英之
(柏崎地区)

令和6年8月からスーパーマーケットやインターネットなどでお米の在庫が次々と無くなり始めました。お盆を過ぎた頃からは、毎日のように「スーパーの棚からお米が無くなった映像」がテレビや新聞で報じられ、その報道がさらに消費を促したのか、米不足の状況は深刻化していきました。

米不足の原因として、令和5年産のお米は ①猛暑による品質低下 ②インバウンド消費の増加 ③南海トラフ地震への買い込み需要 ④生産調整による主食用米の減少などの影響を受けたことが挙げられます。生産者としては需要の増加は喜ばしいですが、突発的な需要に供給が追いつかず価格は高騰してしまいました。お米は一年に一回の収穫であるため、需要がわずかに増えたり減ったりするだけで価格が大きく変動します。

しかし、これらの生産や流通の問題以上に、根本的な原因は「米の消費が減少し続けていること」にある

と思われます。お米の1人当たりの消費量は、1962年度の118.3kgをピークに減少の一途をたどっており、現在の1人当たりの年間米消費量は約半分以下の50.9kgまで減少しています。(※) 1970年から2017年にかけて、お米が余ようになり、米価を維持するために国は転作や保全管理などにより米の生産量を調整する、いわゆる減反政策を推進してきました。減反政策が廃止された後は、農家は自主的な経営判断で米を作れるようになりましたが、米の消費量は依然として減少し続けています。

お米の消費量を増やすためには、普段から一人一人がごはんを食べる量や機会を増やすことが効果的です。「日本人の主食である米を大切にする」ということについて、食料安全保障の点でも改めて注目する必要があると、今回の騒動で気づかされました。皆様にも、今回の騒動で日本の食卓を支えているお米の大切さを改めて知り、食べることで農業を応援していただければと思います。

※ 農林水産省HPより

<https://www.maff.go.jp/j/heya/sodan/1808/01.html>

柏崎の食を味わう 秋の収穫祭

10月27日に柏崎の食の一大イベント「秋の収穫祭」が市役所やアルフォーレ周辺で開催されました。7回目を迎える今回は、過去最大規模の約1万8千人が来場しました。

会場では、柏崎産の新米や野菜、きのこ栽培セット、浜焼き、漬物といった旬の農林水産物や加工品が販売されました。中でも、タマネギの詰め放題は、開始前から長蛇の列ができるほど大人気でした。市内飲食店による出店もあり、来場者は「おむすび食べ比べセット」やスイーツなどの柏崎グルメを堪能していました。農業用機械の操作体験、はたらくくるまの展示、市内高校生による音楽や書道のパフォーマンスが行われ、家族連れなど多くの方でにぎわいました。秋の味覚と催しを存分に楽しめる一日となりました。



柏崎市賃借料情報

令和7年1月1日

柏崎市農業委員会事務局

- ★令和6年1月から12月までに締結(公告)された農地の賃借料情報を提供します。
- これは、農地の賃借料を話し合うときの目安となるように地域の実勢を最も多い締結額、最低額、最高額で表したもので、賃借料を決めたものではありません。
 - 賃借料に、水利組合の水利費や土地改良区の賦課金等に相当する費用が含まれている場合があります。
 - 賃借料を決める際は、農地の実情に応じ、貸し手と借り手の両者でよく協議したうえで決定してください。

1 田(水稻) 10アール当たり (100円未満四捨五入)

締結(公告)された地域名	最も多い締結額(円)	最低額(円)	最高額(円)	データ総数(筆)	備考
旧 柏 崎 田 尻 北 鯖 石 西 中 通	10,000	3,200	16,000	673	
中 鯖 通 中高 石 上 田 条	10,000	2,000	11,300	581	
米 山 高 浜	—	—	—	—	実績なし
黒 米 姫 上 鯖 山 南 石 北 条	5,000	2,700	10,700	601	
高 柳 町	5,000	2,000	7,000	39	
西 山 町	10,000	3,000	10,100	308	

2 畑(普通畑) 10アール当たり (100円未満四捨五入)

締結(公告)された地域名	最も多い締結額(円)	最低額(円)	最高額(円)	データ総数(筆)	備考
柏 崎 市 全 域	5,000	3,000	12,000	21	

免税軽油に係る耕作証明書は

1月10日(金)から1月31日(金)まで

柏崎市役所 3階の農業委員会事務局窓口

または高柳町事務所・西山町事務所が発行いたします。

<持ち物など>

- ・本人確認資料（免許証・マイナンバーカードなど）
- ・代理人が窓口に来られる場合は、委任状と代理人の本人確認資料（証明対象者と同一世帯の方は、委任状は不要です。）
- ・法人申請の場合は、法人の代表者印（会社実印）
- ・1通300円の証明手数料がかかります。



国民年金に上乗せする公的な年金制度

農業者年金で

老後の生活を 安心サポート



あなたの老後生活への備えは十分ですか？
年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。
農地を持たない農業者や家族従業者も加入できます。



- 1 農業者なら広く加入できる
- 2 積立方式で少子高齢化時代に強い
- 3 保険料は2万円から自由に選択できる
- 4 終身年金で80歳までの死亡一時金あり
- 5 保険料は全額社会保険料控除
- 6 保険料の国庫補助制度(一定要件あり)

今なら3ヶ月間、無料で試読できます



発行所：全国農業会議所

農業の最新情報や営農に役立つ情報が満載です。地域の明るい話題なども紹介しています。

■毎週金曜日発行

■月額700円
(送料、消費税込み)

■申込みは、農業委員会事務局へ

農業委員会だよりの内容について

ご意見 募集中

表紙にとりあげてほしい方（市内で頑張る農業者の方など）や、こんな情報を載せてほしい！知りたい！という方は、ぜひご意見をお寄せください。

※確実に掲載をお約束するものではないことをご了承ください。



柏崎市農業委員会HP
お問い合わせフォーム

編集後記

「どこにもお米が置いていない」毎日のようにメディアで取り上げられ、1993年以來の米騒動が起き、良くも悪くもお米が国民の皆様の注目を浴びることとなった2024年が終わりを告げました。あまりの注目に生産者の皆様も困惑されたことと思います。

2025年は生産者にとって、「生産者の高齢化」「生産者の減少」「農地、農村を襲う獣害の脅威」、さらには「農村地域の減退」という大きな課題を抱えながら「地域計画の策定」「需要に応じた生産」を行う大事な年となります。本誌では、今後も様々な課題への解決の糸口、また農業の明るい未来が見えてくるような記事を皆様にお伝えできればと考えております。

本年が皆様にとってよい年でありますように。（山波 剛）



情報会議代表 水野 美保

情報委員 石塚 道宏 / 高橋 啓子 / 山波 剛 / 駒野 博実 / 月橋 明日香